

# 新聞における投書表現の分析－付録：ことば研究の方法と立場－

佐竹 秀雄（武庫川女子大学言語文化研究所）

**概要：**新聞における投書を調査対象として、そのテーマと表現スタイルとの間にどのような関係が見られるかについて、計量言語学的な視点から分析した。投書をテーマによって公的なものと私的なものに分類し、両者が、品詞比率、語種比率、文の長さ、字種比率などの点でどのように異なるのかを調査した。その結果について発表する。また、この調査研究を踏まえて、ことばを研究するに際して、どういう点に留意し、何を目指すべきかについての私見を述べる。

## 1. 目的

投書の表現スタイルが、扱うテーマによってどのように異なるかを、計量言語学的な視点から分析する。読み手が感じる、テーマによるスタイルの違いは、実際に存在すると認めることができるのか。もし、認められるならば、その違いは、どのようなものだと言えるのか。

## 2. 調査・研究の方法

### (1)投書データのサンプリング採取

朝日、毎日、読売新聞における読者投書欄。対象期間は2006年1月～6月、各紙30日（1か月）分を無作為抽出。6日に1度の割合で掲載されている投書すべて（全587文章）を採取した。

### (2)投書ごとのファイル作成：属性データ入力と内容による分類

### (3)データのテキスト処理：単位切り（「茶筌」を利用）と情報付加（品詞／語種）

### (4)内容と表現形式のクロス集計・考察

## 3. 分析の指標

### (1) 内容分類：テーマが「公的」か「私的」か。

公的テーマ：政治的、社会的、国際的な問題や事件について論じているもの。また、それらについて賛同・批判・抗議・提案などを述べているもの。

#### ●センター試験避けたい真冬（主婦・32歳・女性）

首都圏も大雪に見舞われた21、22両日、今年の大学入試センター試験が行われた。去年は1月15、16両日だった。一年で最も寒いこの時期に、大勢の若者の半生を左右しかねない試験を毎年なぜ実施するのか、と私は疑問でならない。私は大学に推薦入学したので、センター試験を受けていない。でも、2歳になる長男はいずれ受験するかもしれない。そう考えると、他人事ではない。（中略）答えは簡単に出そうにないが、受験生に最も望ましい日程を、時間をかけて検討し直す時期にきているのではないか。

私的テーマ：身のまわりの出来事や体験したことを随想風に述べているもの。日常生活のマナーや人生観、自然について述べているものもこれに含む。

●義母を思い掘るタケノコの季節（主婦・61歳・女性）

今年もタケノコがおいしい季節になりました。この2月、89歳の誕生日を目前に急逝した義母は、地面からタケノコが顔を出し始めると途端に元気になる人でした。タケノコを掘り出す義母の腕前はまさにプロ級。年老いた体のどこにこんな力があつたのだろうと不思議に思うくらいでした。その義母が亡くなり、今年は、夫と二人でタケノコ掘りに出掛けました。（中略）あの人にも、この人にもあげたいと知り合いの顔が次々思い浮かび、欲が出てきます。義母もきつとこんな思いがあつたからこそ、大変さも忘れて掘ることができたのでしょう。この日の収穫は35本。自然がくれる味覚に感謝しながら、旬のタケノコ料理を満喫しています。

(2) 言語形式

①品詞比率／②語種比率／③文の長さ／④字種比率／⑤文末形式（タ・テアル体・テマス体）比率

4. 調査結果－内容（テーマ）と言語形式

(1) テーマと品詞比率

表 1. テーマ×品詞比率

テーマ	名詞	動詞	形容詞	形容動詞	副詞	連体詞	接続詞	感動詞	全体語数
公的	58.9	28.4	2.9	3.6	3.3	1.6	1.2	0.1	30011
私的	55.1	31.0	3.8	2.9	4.0	1.9	1.1	0.2	34033
全体	56.9	29.8	3.4	3.2	3.7	1.8	1.1	0.1	64044

【公的テーマの例】

戦時下 最大の 言論弾圧 事件、横浜事件の再審で横浜地裁は9日、裁判 打ち切りの免訴判決を言い渡した。無罪や有罪かの判断を回避し、亡くなった元被告の名誉回復に結びつかない判決だと言わざるを得ない。

【私的テーマの例】

でも、これまでの長い(形容詞)人生に比べ(動詞)りゃそんなのどう(副詞)でもいい(形容詞)、と気を取り直す(動詞)。今日からまた(副詞)、老人力を発揮す(動詞)ればいい(形容詞)。今更(副詞)、身体的なパワーは出(動詞)ぬが、精神的な話で来い(動詞)だ。

樺島忠夫(1979)『日本語のスタイルブック』

	名詞	文長
談話語	41.0	5.4
『女性自身』会話	49.1	6.9
『週刊新潮』会話	53.6	8.8
『女性自身』地の文	56.4	8.5
『週刊新潮』地の文	59.1	10.2
新聞社説	57.8	15.4
広告の文章	63.0	5.5
出版目録解説	60.6	10.6
映画解説パンフ	67.3	14.3
新聞記事	68.3	13.4
番組案内	70.7	11.3
新聞見出し	85.5	—

## (2) テーマと語種比率

表 2. テーマ×語種比率

テーマ	和語	漢語	外来語	混種語	その他
公的	51.8	41.1	2.2	1.3	2.6
私的	63.6	29.5	2.4	3.2	1.3
全体	58.1	35.0	2.3	2.8	1.8
雑誌 90 種(1956)	53.9	41.3	2.9	1.9	
雑誌 70 種(1994)	38.9	43.1	10.1	1.8	6.1

### 【公的テーマの例】

今回の判決は、被告が犯行時に少年だったため、極刑に処するにあたって最高裁が若干の配慮を示したのだろう。(中略)ただ、少年犯罪の頻発、凶悪化が顕著な今、判決によって、凶悪な少年犯罪の頻発に、ある程度歯止めがかかると期待できる。

### 【私的テーマの例】

街でベビーカーに乗せた赤ちゃんをよく見かける。ベビーカーの赤ちゃんは、何も知らずに眠ったり、澄み切った瞳をして納まっている。時々、赤ちゃんの相手になる。

## (3) テーマと文の長さ

公的なテーマの場合：10.3 語 (39.5 字)

私的なテーマの場合：9.2 語 (35.0 字)

全体：9.7 語 (37.1 字)

## (4) テーマと字種比率

表 3. テーマ×字種比率

テーマ	漢字	平仮名	片仮名	ローマ字	数字	記号
公的	35.9	52.3	3.6	0.1	0.9	7.2
私的	30.6	56.4	4.2	0.1	1.0	7.7
全体	33.1	54.4	3.9	0.1	1.0	7.5

参考：佐竹秀雄(1982)  
『各種文章の字種比率』  
(国語研報告 71  
『研究報告集(3)』)

	漢字	ひらがな	カタカナ	英文字	洋数字	記号	句点	読点	スペース
小説	24.78	60.72	4.44	0.05	0.01	1.88	2.44	4.56	1.12
評論・論文	31.99	53.80	6.13	0.30	0.30	1.55	1.63	3.86	0.43
実用・解説	23.39	53.91	13.75	0.31	0.73	1.27	2.11	3.78	0.73
ルポ・報告	31.41	51.27	7.34	0.38	0.57	1.99	2.45	3.64	0.94
インタビュー・座談会	22.89	62.10	4.69	0.15	0.11	1.54	2.64	3.54	2.35
随筆	26.05	59.59	5.63	0.07	0.00	1.10	2.38	4.47	0.70
エッセー	26.24	60.27	5.03	0.27	0.18	1.09	2.33	3.78	0.80
読者投稿	26.52	57.29	6.96	0.22	0.29	1.49	2.27	3.96	1.00
全体	26.52	57.29	6.96	0.22	0.29	1.49	2.27	3.96	1.00

## (5) テーマと文末形式

表 4. テーマ×文末形式（カッコ内はテーマ別の比率）

テーマ	ダ・デアル体	デスマス体	混合タイプ	計
公的	196 (71.8)	73 (26.7)	4 (1.5)	273
私的	185 (58.9)	121 (38.5)	8 (2.6)	314
全体	381 (64.9)	194 (33.1)	12 (2.0)	587

### 5. テーマによる言語的特徴の差

公的テーマの文章の方が、私的テーマのものに比べて、名詞比率が多く、漢語比率が高く、1文の長さの平均が長く、漢字が多くて、ダ・デアル体の割合が多いという違いがあった。他方、私的なテーマの文章では、副詞、形容詞の比率の多いこと、和語比率の高いことという特徴が見られた。

しかし、そのような差異はあっても、大枠としてはいずれの文章も要約的な性格をもつと考えられた。新聞の投書という形式は、公的なテーマの文章の方がより要約的な色彩が強く、それに対して、私的なテーマの文章の場合は、もう少し日常語的な要素や個人的な心情が加わることがあり、そのことが、上に記したような両者の差異をもたらしたと見るべきであろう。

投書をしようとする人は掲載されることを求めており、そのような人には掲載された投書は一種のお手本となろう。掲載された投書に対して、それとは異なった新しい形式を生み出すよりも、掲載されることを求めて、形式の模倣に走る可能性は当然高くなると推測される。その結果、いわば歴史のある投書界における伝統的なスタイルが守られることになるのではないかと。

それだからこそ、一般の書きことばの典型のような社説に近い要約的な表現が基本となっているのであろう。歴史的な経緯から見て、初期の投書は社会的な問題にももの申すタイプであった。近年は、それに私的なことがらを述べるタイプが加わっている。私的なテーマのものは、その内容から旧来の公的テーマのタイプとは、少しは表現スタイルが異なってきた。ただし、それでも、投書の伝統的なスタイルから外れるほどではなかった。そのような事情が、これまでに述べてきた両者の数量的な差異となって現れたと考えられる。

### 付録：ことば研究の方法と立場

- ・「何を」「どのように」→研究の意義・研究の公平性（検証可能性）
- ・「調査(研究対象)の選択」→研究の動機・ねらい・目標